

ボート部での思い出

20期 宮路勝善

ちびりちびりと、一人、熱爛でやりながら、30数年前を思い返してみる。甦って来たのは、レースで審判艇にも抜かれて悔しさと空しさで一杯になった事、仲間と寝食を共にした合宿所生活の事、辺ぴな所にあった合宿所の事、それから上級生からの命令は絶対であった事、等々である。

正直な所、レース成績はあまりパツとしなかった。チャンからエイトを借りて出艇した時の事。ゴール間近の先頭集団との差があまりにも開いた為、レースを見守る審判艇がやむなく我が艇を追い越した。モーターボートが出す追い越しぎまの波が不規則にオールに当たり、8本のオールが刻むリズムを狂わせた。舷に当たる波の飛沫で全員がずぶ濡れになりながら、なんとかゴールにたどり着いたものの悔しさと情けなさだけがこみ上げた。

当時は戸田での合宿練習がメインだった。春、秋の大会をターゲットに2カ月前後の合宿を2回実施した。チャンが使用している合宿所の、1階にある畳部屋のミーティングルームを借り、そこで寝起きしながら、乗艇を中心とする朝夕の練習に明け暮れた。朝夕の賄い、合宿所の掃除もチャンと共にこなした。これらは専ら1年生の仕事であった。朝飯の定番のおかずであった野菜炒め（肉なし）が水っぽいだの、夕飯で作ったポークチャップの味付けがおかしいだのと上級生からはよく叱られたものだ。畳部屋における唯一自分のスペースは、レンタルで借りた布団が作る万年床のみ。一時の休憩、宿題やおやつを食べるのも全てここで寝ながら行った。ちなみにこの布団を干した記憶は全くない。

当時の戸田の合宿所は、辺ぴな所であった。戦後初めて開催された東京オリンピック（2020東京オリンピックの前）の漕艇場にあるとは言え、夜はポツンポツンと光る街灯を除き、真っ暗であった。

ある晩、合宿所の台所で夕食の後片付けをしていると、外から「飯を食わしてくれないか。」と男の声がした。よく見ると窓越しに人の影、おこもさんか競艇レースで負け込んだ人だろうか。再びお越しになると困るので、丁重にお断りして帰って頂いた。

週末の夜の漕艇場は、車が等間隔でコースに沿って停まる絶好のデートコースにもなっ



（勤務中の筆者）

ていた。日曜日の夜、フライ明けで合宿所に戻るとなんだか玄関が騒がしい。コースの横に停めた車の中で気が付くと、窓からそっと車中を覗くふらち者がいて、後を追いかけたらこの合宿所に逃げ込んだとの事。被害に遭ったのは車内デート中のお二人で、勇んだ男子が合宿所に乗り込んで来たのだ。この騒ぎに、チャンも含んだむき苦しい大男どもが、ぞろぞろと玄関にやって来た。これに圧倒されてか、乗り込んできた男子は、慌てて彼女とともに車で逃げ去って行った。車内を覗いていた者が本当にいたのか、事の真意は不明である。(まあ、男子だけの合宿所でしたから……。)

一方、上級生からの命令に対し、下級生は絶対服従であった。

不本意で終わったレースの反省として、漕艇場を泳ぐよう命令された下級生らが、これに従い一斉に泳ぎ出した。しかし、そのうちの一人が途中で溺れてしまい、救急車で搬送される騒ぎとなった事もある。

1年上の先輩からは、付き合っている彼女が風邪を引いてとても心配なので、彼女が住む大学の女子寮へ土産を買って持って行く様、指示命令された事もあった。(その後、お二人はめでたくご結婚されました。これからもお幸せに!!)

夕食の後片付けや食堂の掃除が終わる夜8時過ぎ、決まって上級生からは、夜のおやつ
の買い出し命令が出た。

東京のコカ・コーラを買ってこいと命令され、県境の荒川に掛かる夜の戸田橋を渡り、隣
の東京都まで買いに行った者もいたと聞く。

当時、合宿所の付近にはコンビニも無い為、夜の買い出しは、専ら合宿所から歩いて5
分程度の所にあるなんでも売っている“あさひ屋”だった。夜8時過ぎでは、当然、店の
看板の電気は消えシャッターも降りている。暗い中、シャッターをトントンと叩くと、そ
のシャッターが開いて現れるのはいつもの“あさひ屋”の奥さんである。「下級生はいつも
大変だね〜エ。」とあくびを噛み殺しながら、コーラやポテチ、チョコレートの買い物に応
じてくれた。奥さんから頂いたサービスのお菓子を食べながら帰るのが常であった。(あの
田中角栄の娘の真紀子さんに似ていた奥さん、まだ元気かな。)

携帯電話など無い時代、下級生には夜の電話番号もあった。(電話番号は主にチャンの1年生
がやっていたと記憶する。)

合宿所と外部との繋がり、玄関脇にあるこのピンク色の公衆電話1台のみ。彼女が
いる者は、たいてい夜の8時過ぎにそこに電話が掛かって来た。それを取り次ぐのが下級生
の仕事の1つでもあったが、殆どが4年生宛ての電話だった。たまたま電話が空いている
ので利用していると、上級生の睨んだ視線が届いた。「お前、早く電話を切れ、俺の彼女か
ら電話が掛かってくるんだから。」と。そんな訳で、彼女に電話したい下級生は、少し離れた
公園事務所脇の公衆電話を利用したものだった。

酔いも手伝い、当時の記憶が走馬灯の様に駆け巡る。残念ながら、レースでの栄光は掴
めなかったものの、ボート部を通じての思い出は人一倍得た様だ。(加えて、ミニオールも

得る事が出来ました。有難うございます。)

創部 60 周年式典の開催案内が届き、ホームページのURLがあったのでクリックした。なんとも明るく、楽しそうな数々の画像で溢れている。華やかに女性部員もいる、企画旅行や日々の練習が何とも楽しそう。

どうやら我が部も、昭和の男子校の世界から、スマートで現代的な部活へと見事に脱却してくれた様である。

現役の皆様、更なる活躍を期待しております！！ 引き続き頑張ってください。

(近況報告など)

無事4年間で電気工学科を卒業後、茨城県にある建設機械メーカーに勤め、そこで定年を迎えました。現在はシニア社員2年生として引き続き勤務しており、廃校となった小学校を利用した実験場の立ち上げ準備や、所属部が主催する会議の開催準備に携わっています。実験場の立ち上げは、場所を確保したものの、予算化、設計、施工工事はこれからのので、伐木、草刈り、不要品の整理を気ままに行っています。興味を持たれた現役生がおりましたら？遊びに来て下さい、お待ちしております。

以上



← コロナ禍前の、夏祭りでの集合写真です(右上端が筆者)。今は水上ではなく陸地で活動しています。テントの設営、提灯の飾り付けや電球の配線、山車の製作や飾りつけ、焼きそば・焼き鳥・かき氷づくりと、全てを皆で行います。コロナウイルスが終焉したものの、今度は少子高齢化の波がドツと押し寄せ、今後の運営はもはや厳しいかと。